

第3学年道徳学習指導案

令和元年10月29日(火) 第5校時
四万十市立東中筋中学校3年生11名
授業者 森原 茂樹

- 1 主題名 差別や偏見のない社会の実現 C(11) 公正、公平、社会正義
- 2 ねらい 主人公が目指した社会のあり方を考えることを通して、偏見や不寛容な心など人間の弱さや醜さに気づき、差別や偏見のない社会の実現に努める道徳的実践意欲を培う。
- 3 教材名 「虹の国ーネルソン・マンデラー」(出典:「自分をのばす3」廣済堂あかつき)

4 主題設定の理由

(1) ねらいや指導内容についての教師の考え方

多種多様な人々が暮らす現代社会は、公正、公平で社会正義が実現されたものでなければならない。しかし、大変残念なことに、人種差別や性差別をはじめとした様々な差別や偏見が、日本や世界各地の社会において存在しているのが現実である。こうした差別や偏見から目を背けず、現代的な課題として解決を目指していく意欲や態度を育んでいきたい。

(2) 生徒の実態と教師のねらい

本学級の生徒は、真面目で学習活動や係活動に進んで取り組むことができる。おとなしい生徒がほとんどであるが、学校生活の中でのちょっとした一言がきっかけとなり、友人関係が大きく変わる経験を幾度となくしている。そのため、班活動等で自分の思いを表現したり、本音で語り合うことに抵抗がある生徒もいる。人権意識調査では、「差別はなくならないと思う」という考えを3年間、変えることができない生徒も数名いる。この教材を通して、公正・公平についての自分の考えを持ち伝えるとともに、友だちの意見を寛容に受け止め、よりよい集団生活・よりよい社会を築いていこうとする道徳的意欲を育てたい。

(3) 使用する教材の特質及び生徒の実態とかかわらせた指導の方策

南アフリカのアパルトヘイトに毅然として立ち向かい差別と戦い続けたネルソン・マンデラの伝記的作品である。人種差別という現実が社会に落とす影は、まさに暗黒である。暗黒の時代に希望をもち、一縷(いちる)の光に向かって歩み続けたマンデラの足跡を確かめながら、差別を生む人間の愚かさや醜さを再確認することができる教材である。マンデラが目指したのは「黒人差別をなくす」ことではなく「あらゆる差別と偏見をなくす」ということであった。無知や不寛容な心が生み出す差別、偏見に対して、怒りだけではなく、寛容な心で立ち向かうマンデラの生き方から、公平な社会の実現に向けて考えていきたい。

5 本時で期待する生徒の姿

[授業前の生徒の考え方]

→ [授業を通して高めたい生徒の考え方]

・差別はいけないとわかっているが、どうすることもできない。
・人種差別は自分たちとは違う世界のことである。

→

・公正、公平であることは難しいことだが、自分一人でも貫きたい。
・差別をなくすことは、自分自身の考え方から始められる。
・他者の反対があっても、それが社会や集団のためだと思えることなら、我慢強く取り組みたい。

6 準備物 掲示物

7 本時の展開

	学習活動	主な発問と予想される生徒の反応 ◎中心発問	指導上の留意点
導入	教材の内容を振り返る。		・事前に本文を読み聞かせておき、簡単にあらすじを振り返る。
展 開	(1) アパルトヘイトが終焉を迎えた時の人々の心情をとらえる。	○国民はマンデラにどんなことを期待していたのだろうか。 ・黒人が暮らしやすい国に。 ・みんな平等。 ・白人への仕返し。 ・黒人と一緒にしないで。 （白人の不安・不満） ・黒人が優位に。	・制度がなくなっても、白人に対する怒りや憎悪、黒人に対する恐れ・不安が消えていないことから、無知から生まれる偏見や不寛容な心など、人間の弱さや醜さに気づかせる。
	(2) マンデラが目指す社会のあり方について考える。	◎ラグビーワールドカップを通じて何をしようとしたのだろうか。 ・優勝したら国が変わるかも。 ・黒人も白人も一つになれる。 ・心の壁を取り除く。 ・差別する気持ちを忘れさせる。 ・一緒に笑顔になり、心が打ち解け合うように。	・マンデラの目指した社会について考えさせる。なぜ白人がもたらしたラグビーに尽力したのかという視点についても投げかけ、多面的・多角的に考えさせる。 ・必要に応じて補助的に発問する。
	(3) マンデラを支えてきたものについて考える。	○活動を続けてきたマンデラを支えてきたものは何なのだろうか。 ・マンデラの人柄。（寛容さなど） ・みんなが平等な（公平な）社会であってほしいという思い。 ・あきらめない強さ。 ・相手のことを理解しようとする心。 ・しっかりと差別と向き合うこと。	・マンデラの人生から、差別や偏見に立ち向かう力を考えさせえる。
終末	(4)まとめ（文章化）	本時の学習で考えたことを書いてみよう。	・ワークシートに記述させ、発表させる。

<補助発問>
 ○どうすれば一つ（一緒）になるとは？
 ○「心の壁」って、どんなものでできている？
 （自分と違う、知らない、トラブルなど）
 ○南アフリカの例は理想論であって、私たちには実現できないのでは？

【評価の主な視点】偏見や不寛容な心など人間の弱さや醜さに気づき、差別や偏見のない社会の実現に努めようとする発言や記述がある。